

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年十一月度 入選句（投稿総数三千三百九十二句・一般投句数四百十六句）

特選

選者 長野 美代子

一町歩守る氣迫の案山子かな

愛知県名古屋市長野 茂子

「一町歩」と言っても私共には分からない広さである。きつと広いのであろう。雨の日も風の日も鳥にも目を光らせて守っていてくれるのでしょうか。本当に有難うと言いたいです。秀句です。

電車にて移動してゐる冬の蠅

大垣市 内山 良

此のような俳句は見たことがありません。ユニークな句ですね。蠅が電車で移動するとは。誰かについて来たのか、暖かい電車の中はいいですね。臨場感があり微笑しい句です。私の好きな句です。

波間より沖の漁火星月夜

大垣市 高石 政明

「星月夜」が良いですね。真つ暗な海、はるが沖に見える漁火とは美しい景ですね。星もちらちらとして静かな海が浮んで来ます。静かな句ですね。素敵です。

秀逸

七五三着崩れ歩く袴の児

安八郡神戸町 早津 郁男

軽快な鉢の庭師冬隣

大垣市 不破 英雄

今朝もまた桜紅葉の彩を掃く

養老郡養老町 田中 秀草

鯉の餌に亀が顔出す小春かな

大垣市 村田 通夫

あのあたり兎の耳か居待月

不破郡垂井町 清水 るり

老後とは今の二人か秋なすび

不破郡垂井町 高木 巧み

秒針の音に眠れぬ夜長かな

神奈川県横浜市 龍野 ひろし

この星の何処かに忘れ時雨傘

千葉県千葉市 箕輪 恵三

銀の穂の風となりたる芒原

三重県四日市市 後藤 允孝

一振りの塩を決め手の鯛かな

神奈川県横浜市 谷元 央人

入選

目鼻らしところもありて衣被
パン食べて一人の夜長もてあます
流るるもの留まる落葉水門川
秋雨に濡れる翁の草鞋かな
一天を揺るがごとく威し銃
ひた急ぐ水の流れや秋惜しむ
澄む水の藻の間を走る魚の影
手に置きて風より軽き散り紅葉
小鳥来て目尻下げゐる野の仏
我先に日矢つかみとる石露の花

福井県敦賀市	山田 美千代
東京都世田谷	関戸 信治
多治見市	渡辺 美晴
兵庫県神戸市	紫 桔梗
愛知県額田郡	平松 京師
岐阜市	花川 和久
大垣市	伊藤 英司
大垣市	森川 きよ子
大垣市	野村 多佳子
大垣市	宮脇 和子

入選

桐一葉踏みしむ古道険しけり
燈台へ桜もみぢの散りはじむ
伊吹嶺に片雲もなし小春かな
大屋根と競ふ高さの松手入
柿落葉掃く背中にも又落葉
高軒すぐに始まる干し蒲団
大太鼓叩く音頭や豊の秋
静かなる仏足石に六の花
「おみやげ」とポンと背中にゐのこづち
背の子のずしんと重しけふの月

大垣市	中西 映衣子
滋賀県野洲市	土井 妙子
不破郡垂井町	竹嶋 富美子
不破郡垂井町	久保田 紘義
不破郡垂井町	大羽 志津子
大垣市	北浦 典子
大垣市	澤井 国造
大阪府大阪市	梅田 紀江
静岡県藤枝市	山本 紫苑
揖斐郡揖斐川町	栗野 みねお

選者吟

十一月はよ帰らねば闇迫る

美代子